広報蕨　八三八号　令和二年九月一日発行　毎月一回発行　印刷・㈱秀飯舎

# 輝いてます ひと

歯科衛生士

## 諸永（もろなが） 千尋（ちひろ） さん

## 蕨の子どもの歯を守りたい

「母親目線で説明します」と白い歯を見せる諸永さん

「子どもの虫歯で悲しむ親を減らしたいんです」と真摯な表情で夢を語るのは、諸永千尋さん（35歳・塚越6丁目）。歯科衛生士として、公民館や児童館で乳幼児の歯の健康講座を開き、虫歯予防のたいせつさを伝えています。

歯科矯正などで歯医者に通った子ども時代。看護師の母の影響もあり、医療職に憧れて、歯科衛生士を目指します。転機は専門学生のとき。小児歯科での実習時に、治療を受ける子どもに「ごめんね」と涙を流す何人もの母親の姿に衝撃を受け、冒頭の思いを抱きます。そして、歯科医院に就職後、お菓子を持って来院する子に虫歯が多いと感じ、「歯医者に通う前の段階で、虫歯予防を働きかける場が必要では」と、思いを新たにします。

そんな諸永さんの思いが形になったのは4年前です。子育て中に、公民館などでママ友から虫歯の相談を受けるなかで、正しい知識を伝える場所づくりを地域の皆さんに相談。すると、「ぜひお願いします」と快諾をもらい、東公民館を皮切りに、塚越地区で次々と講座の開催が実現します。

講座の特徴は「インパクト」と「母親目線」。ジュースが含む糖分を角砂糖で見せるなど視覚に訴えることで、親たちに「おお！」という反応を生み、リスクを避けるよう導きます。また、うまく歯が磨けないと悩む親には、子育て経験を基に、「虫歯の原因は他にもあるので、フッ素を使う、お菓子を控えるなどできることを行いましょう」と優しく伝えます。

今月16日には、質問が絶えない人気講座「0歳からの虫歯予防」が、コロナ対策をしつつ、塚越児童館で開かれます（25日からCATVで一部を放映）。声があれば他地区でも足を運ぶと語る諸永さん。蕨の子どもたちの未来も歯もぴかぴかに輝く日を目指します。

---

今月の河鍋暁斎記念美術館

## 天才絵師の作品 蕨にあり

—No.52—

「しんぼふ」と書かれた赤い棒から、黄色い糸が垂れ下がっています。その糸につながっている上段の人々は、機織りや農作業など四季折々の仕事を「辛抱」強く励んでいます。一方、糸が棒につながっていない手前の男たちは酒や煙草（たばこ）などに耽（ふけ）っているようです。いちばん左の男は遊女に追いかけられた拍子にひっくり返り、糸が途中から切れてしまっています。幕府が倒れ、開化の波が押し寄せるなか、「心棒」を失った士族たちの姿を風刺しているようです。

本作品は現在の展覧会で御覧いただけます

暁斎筆
「応需 暁斎楽画 第十号 しんぼふ」
大判錦絵

yosai Kawanabe

現在の茨城県古河市に生まれる。浮世絵や狩野派を学び、江戸・東京の庶民から人気を博す。明治9年、万国博覧会に肉筆画を出品。14年、内国勧業博覧会で日本画の最高賞受賞。娘の暁翠も日本画家。

河鍋（かわなべ） 暁斎（きょうさい）
天保2年（1831）
～明治22年（1889）

### 河鍋暁斎記念美術館　開催中

「筆禍事件から150年　暁斎の風刺画」展
同時開催　「『狂斎百図』に見る暁斎のユーモア」展

展覧会の詳しい内容は美術館のホームページをご参照ください

開　館＝午前10時～午後4時
休　館＝木曜日、毎月26日～末日
ところ＝南町4-36-4
入館料＝一般600円　高校生・大学生500円
小・中学生300円　65歳以上500円
※65歳以上の人は年齢の分かる物、学生は学生証をご提示ください
詳　細＝同館（☎441・9780）

広報紙に載っている写真を希望者に差し上げます（一部を除く）　秘書広報課広報広聴係までご連絡ください